

2011年6月23日
在香港日本国総領事館

猩紅熱に関する注意喚起

最近、当地では猩紅熱が流行しています。香港政府によれば、ほとんどの場合、症状は軽度ですが、他の病気と合併すると重症化することもあります。在留邦人の皆さんは手洗いなどの予防策に努めて頂くと同時に、今後の新聞やテレビ等での報道にもご注目ください。

以下、香港政府衛生署の発表や報道等をもとにまとめてみましたので、ご参考にしてください。

1. 猩紅熱とは

猩紅熱はA群連鎖球菌によって発病し、10歳以下の児童に多くみられ、発熱、咽喉炎及び発疹の症状が見られます。発疹の多くは胴体や首からはじまり、手足特に脇やひじ、股間にまで広がります。適切な抗生物質服用により治すことが可能で、通常あまり重症化することはありませんが、ショックや心臓及び肝臓の病気によって重症化することがあります。

猩紅熱は呼吸または（くしゃみ等の）呼吸器からの分泌物により感染します。

2. 香港での流行状況

(1) 本年初めから6月17日までの間に香港政府衛生署に報告された猩紅熱の罹患件数は419件。この件数は、過去10年間の年間発生件数を上回っています。特に4月以降、4月が75件、5月が100件、6月は17日までに142件と増加が見られます。

(2) 419件の患者の内訳を見ると、年齢分布は生後1ヶ月から37歳ですが、そのうち93%は10歳以下の児童です。ほとんどのケースは軽症で、過去に報告のあった病状とあまり変わりはありません。

(3) 沙田の幼稚園に通う5歳の園児が15日に発熱し、19日に入院しましたが、21日に死亡しました。このケースは、猩紅熱に他の病気が影響し症状が悪化した可能性があるとして、現在検査が行われているとのこと。また、この幼稚園は、7日間の休園になる見通しです。

その他に、5月末にも7歳児が死亡する案件がありました。

3. 予防対策

(1) 手洗いを励行し、手を清潔に保ってください。

(2) 飛沫感染しますので、くしゃみや咳をするときは手で口を隠すなど、ツバ等の分泌物が周りに飛び散らないようにしてください。

(3) 部屋の空気の循環を良くしてください。